

# 音楽科における 協働的な学びの実践例

# 実践について

対 象                    第5学年

題材名                「日本の音楽」

目 標

旋律や音色、拍から、日本の民謡や子もり歌のよさや面白さを感じ取り、音楽の特徴を生かして歌ったり、味わいながら聴いたりすることができるようにする。

# 実践について ～学習の流れ～

時数	学習内容	教材
1 時間目	日本の旋律のよさや特徴を生かす歌い方を工夫する。	(共)子もり歌
2 時間目	日本の旋律のよさや特徴を感じ取って聴く。	会津磐梯山 音戸の舟歌
3 時間目	日本の旋律のよさや特徴を感じ取って聴く。	木曾節、 金毘羅船舟など
4・5 時間目	旋律の感じを生かした表現活動を通して、日本の民謡のよさを味わう。	こきりこ節 ・谷茶前

# 実践について ～児童の実態～

• 歌うのも、聴くのも好き



• 大合唱やダンス



• 「よく分からない」「…」



• 「きいたことある」「面白い」



# 実践について ～アイテム～

イヤホンジャック分配器を  
活用すると、同時に複数の人  
が音源を聴くことが可能

- 曲が生まれた背景  
漁師の舟こぎ歌として生まれた
- 歌い方  
地声、節回し（こぶし）、ゆらしている、  
はやし言葉（かけ声）
- 楽器  
三味線、太鼓
- せんりつ

